日本教育新聞　2021年（令和3年）1月4日（月曜日）

日本教育新聞に、本園のデジタルツール（ICT）を活用した保育の取り組みの記事が掲載されました。

ICT活用で遊び・生活豊かに

武蔵野東第一・第二幼稚園（東京・武蔵野市）

検索で興味・関心深める

活動撮影し、自身を客観視

「環境を通して行うこと」を基本として、遊びや生活の中で五感を働かせ、自分の周りの世界と関わる中で学ぶこと、意味をつくり出す過程で成長することを大切にしている日本の保育。そうした中で、デジタルツール（ICT）を活用することができるか、可能性を探る動きが始まっている。東京都武蔵野市の㈻武蔵野東学園　武蔵野東第一・第二幼稚園（加藤篤彦園長、園児2園計578人）では、子どもの自由な遊びと暮らしをより豊かにするための環境の一つとしてデジタルツールを活用している。

健常児と障害のある子が共に育ち合う「混合教育」を基軸に、「『ひと』『もの』『こと』との出会い」を大切にした保育を実践する武蔵野東第一・第二幼稚園。そうした中で、子どもたちの遊びや生活を深める環境の一つとしてデジタルツールを活用している。

主に利用しているのは「デジタルカメラとタブレット端末」と「ウェブ会議ツール」の二つ。このうち、タブレット端末については各クラスに1台配備し、子どもたちが遊びや生活の中で興味を持ったことを調べたり、活動の様子を撮影して振り返りで示したりすることなどに使っている。

遊びや生活の中で興味を持ったことを調べた例としては、劇遊びの中で子どもたちから「あの絵本の話があるよね」というアイデアが出てきた時、その絵本をイメージできない子がいた場合に、保育者がタブレット端末で表紙の画像を見せて、理解を助けたことがあった。

廃品素材で鳥や動物を作ることになった時には、対象となる生き物を図鑑で調べてもすぐに出てこなかった場合に、保育者が「こっちで見てみようか」と促し、タブレット端末で検索した。デジタル図鑑などで聞くことができる虫の鳴き声をタブレット端末で味わった後に園庭の虫を探したり、園外の公園に出掛けたりもした。

活動の様子を撮影して振り返りで示す例としては、落とし穴をイメージした作品を作った子どもが「落とし穴に落ちた自分の絵を描きたい」と言った時、その子が落とし穴の中に入っている姿を保育者が撮影して画像を見せたことで「実際にはこんなふうになる」ということを理解できた。

また、5歳児を中心とした子どもが踊ったり、縄跳びをしたり、手品をしたりしている動画を保育者が撮影して本人に見せることで、相手に自分がどのように見えているかを理解し、そこから「どうすればもっと良くなるか」という創意工夫が生まれている。

加藤園長は「子どもたちは生まれた時から、デジタルツールが当たり前にある環境で育っている。使いやすい道具の一つとして活用し、興味・関心を深めるきっかけになることで、育っていく力もあると思う」と話す。

そして、現実世界の直接的な体験を大切にすることを前提に、はさみやのり、絵本、図鑑などと同じような環境の一つとしてデジタルツールを活用することが重要と強調する。

一方で、こうしたデジタルツールは便利なものであるため、「道具に使われる」ことがないようにする必要があると警鐘を鳴らす。その上で「子どもたちの興味・関心や発達に合わせて環境を構成し、変化に合わせて『もっと伸びるように』と再構成し続けるのが保育。デジタルツールも他の教材と同じように、子どもの興味・関心や発達に合わせてバランス良く活用する必要がある」と述べた。

ウェブ会議ツールでクラスをつなげる

ウェブ会議ツールについては、新型コロナウイルス感染症による3～5月の臨時休業期間に活用を本格化。ウェブ会議ツールを使って「クラスの集まり」を実施し、話したり、歌を歌ったりするなど担任保育者と子どもたちがコミュニケーションを取ることなどに取り組んだ。その後も小学校とつながるなど、活用を続けている。

これがとても有効だったことから、加藤園長は「今後、こうしたウェブ会議ツールの活用を日常的に落とし込むことができないか」と考えている。

例えば、急な病気で入院したり、重い病気で入院が続いたりしている子どもの病室と園の保育室をウェブ会議ツールでつなぐこと。これができれば、病院から出られない子どもが画面を通して園の友達とつながり、クラスの話し合いに加わったり、みんなで制作している作品を自分も作ってみたりするなど、保育に参加することができるようになる。

「みんなと一緒に過ごしたいと希望しても難しいとき、ウェブ会議ツールを使うことで思いを実現することが可能になる。つながりを保ち、仲間がいる、帰属する場所があると感じられるのは、そうした子どもの心を強くする」と、加藤園長は将来的な可能性の大きさを訴えている。

武蔵野東第一・第二幼稚園＝☎0422・53・4367

5歳児たちのリクエストで保育者が縄跳びの様子をタブレット端末で撮影し（写真上）、自分たちが映った映像を見て振り返る様子（写真下）

※令和3年1月4日掲載